

栗原の稲作通信

令和5年 第3号 令和5年6月12日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

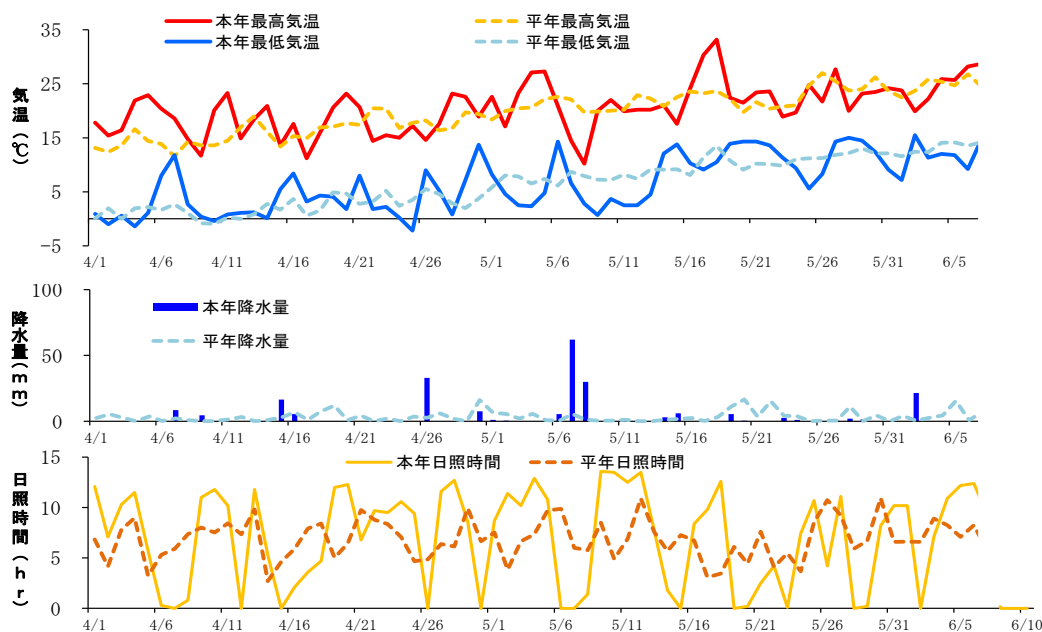
電話番号 0228-22-9404

間断かん水を基本とし、莖数が少ないほ場では浅水管理で分けつの発生を促しましょう。

いもち病の原因となる残苗を処分しましょう。

気象経過（アメダス築館）

- 5月下旬：気温は平年と比べ低く推移しました。降水量、日照時間ともに少なく推移しています。
- 6月上旬：最低気温が平年を下回ったものの、最高気温、平均気温とも平年を上回りました。降水量は少なく、日照時間は多く推移しています。



*点線は平年(過去5か年平均)

東北地方1か月予報（期間：06/10～07/09） ※2023年6月8日仙台管区気象台発表抜粋

予報のポイント

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半はかなり高くなる見込みです。

予想される向こう1か月の天候（東北太平洋側）※ 低い(少ない)・平年並・高い(多い)確率

平均気温：低10% 並20% 高70% 高い見込み

降水量：少30% 並40% 多30% ほぼ平年並の見込み

日照時間：少30% 並40% 多30% ほぼ平年並の見込み

生育経過（6月10日現在）

■生育調査ほ（移植）

- ひとめぼれは、草丈は平年と前年ともに短くなっています。莖数は平年と比べ少なくなっていますが、前年よりも多くなっています。葉色は平年と比べ淡くなっていますが、前年より濃くなっています。葉数は平年と比べ少なくなっていますが、前年より多くなっています（表1）。
- 生育は平年並みからやや遅くなっています。

表1 生育調査ほ調査結果（6月8日現在）

品 種 地 区	田植日 本年	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)		
		本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ 築館 北部平坦	5/5	29.2	88	88	262	152	85	7.5	0.7	-0.3	39.2	5.0	-1.9
ひとめぼれ 若柳 北部平坦	5/21	22.2	78	79	125	103	59	5.5	0.1	-1.1	30.2	-0.1	-7.0
ひとめぼれ 一迫 西部丘陵	5/12	24.9	101	-	166	151	-	7.2	0.8	-	36.4	2.1	-
ひとめぼれ 管内平均	5/12	25.4	88	-	184	137	-	6.7	0.5	-	35.3	2.4	-
つや姫 築館 北部平坦	5/18	29.9	118	107	81	138	71	5.4	-0.1	-0.7	33.2	2.7	-1.3
だて正夢 築館 北部平坦	5/14	29.5	104	-	208	272	-	5.8	0.5	-	33.7	8.2	-
金のいぶき 一迫 北部平坦	5/5	28.2	-	-	331	-	-	6.7	-	-	36.5	-	-
萌えみのり 金成 北部平坦	5/8	26.6	90	87	102	204	67	5.5	0.4	-1.4	38.3	10.7	-3.1

注1：表中の平年比・平年差は、過去5年間の平均値を基に算出。

注2：一迫ひとめぼれ、築館だて正夢は令和2年に調査農家を変更したため、平年比・平年差はありません。

注3：一迫金のいぶきは令和3年6月20日調査から開始のため、平年比・平年差はありません。

注4：ひとめぼれ管内平均は築館、若柳、一迫3か所の平均値。

■直播展示ほ（志波姫の乾田直播ひとめぼれ）

- ・病虫害や鳥害等は見られず、生育は概ね順調です。

表2 直播普及展示ほ調査結果（6月8日現在）

品 種 地 区	播種日	草丈	茎数	葉数	葉色
		(cm)	(本/m ²)	(枚)	(GM値)
	本年	本年	本年	本年	本年
ひとめぼれ 志波姫	4月13日	14.6	136	3.4	33.3

注：乾田直播展示ほの6月10日調査は、前年比・前年差、平年比・平年差はありません。

今後の管理

■水管理

- ・中干しまでは間断かん水が基本ですが、移植が遅い場合や直播栽培などの茎数が少ないほ場では、浅水管理（水深2～3cm）により分けつの発生を促しましょう。

目標有効茎数（6月20日頃）

ひとめぼれ	310～360 本/m ²
ササニシキ	460～500 本/m ²
つや姫	390～410 本/m ²

- ・本年は分けつが平年より少なく推移しています。ほ場で茎数を数えて、有効茎数の確保を確認してから中干しを行いましょう。

- ・中干しの期間は7～10日間とし、遅くとも幼穂形成期（ひとめぼれで7月第2半旬頃）の前には終了しましょう。中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく程度とします。

- ・入水及び落水が的確に実施できるように、水田の溝切りは必ず行いましょう。

※有機物を多用している場合は、硫化水素などのイネに有害なガスが発生しやすいので、溝切りや落水はガス抜きに有効な作業です。

- ・だて正夢は、分けつしにくく穂数が少なくなりやすい傾向があります。ほ場で茎数を確認し、幼穂形成期に茎数が390～460本/m²になるように、中干し等の水管理を行いましょう。

- ・金のいぶきは、ほ場で茎数を確認し、幼穂形成期に茎数が570～620本/m²になるように、中干し等の水管理を行いましょう。金のいぶきは根が傷みやすいので、強い中干しは避けましょう。

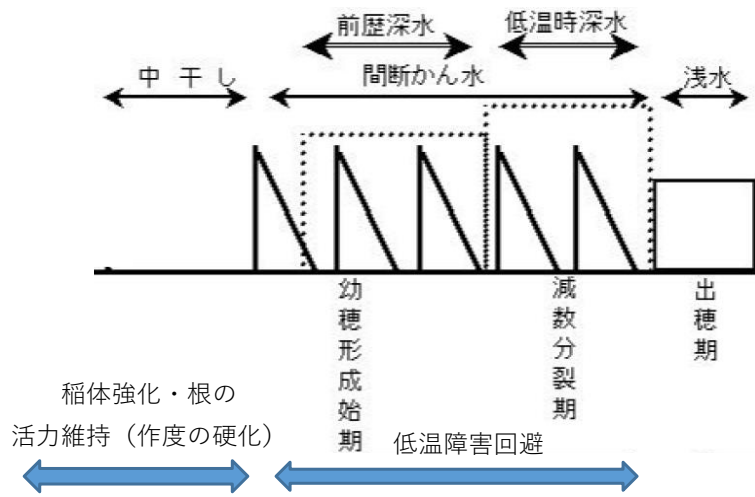


図 中干しまでの水管理

■病害虫防除

▷葉いもち

- 残苗はいもち病の発生源となりますので、直ちに処分しましょう。
- 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤を防除適期に散布しましょう。
- 本田においていもち病の発生が確認された場合は、茎葉散布剤により直ちに防除しましょう。
- 萌えみのりのいもち病抵抗性はひとめぼれ並ですが、多肥栽培により葉色が濃く推移し、いもち病にかかりやすくなりますので、注意しましょう。
- 金のいぶきはいもち病に非常に弱い品種です。箱施用剤と水面施用剤による2回防除を必ず実施しましょう。また、必要に応じて出穂直前に茎葉散布剤で穂いもち防除を行いましょう。

■斑点米カメムシ対策(雑草防除)

▷斑点米カメムシ類

- 畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となります。計画的な草刈りを行いカメムシ類の増殖を抑えましょう。
*管内ではアカスジカスミカメの越冬世代の大半は6月中旬までに成虫となり、水田周辺のイネ科雑草に定着するとみられます。
- ノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの雑草により、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内で増殖して被害が助長されます。残草が目立つ場合は、中期・後期除草剤等により追加防除を実施しましょう。

表4 イヌホタルイの発生量に基づく斑点米被害リスク

6月下旬の株数	落等(2等以下)確率
1 株/m ²	30 %
16 株/m ²	50 %
42 株/m ²	70 %
90 株/m ²	90 %

*水田内でイヌホタルイが密生しているところ1か所を調査
(条間1m内の株数を3.3して1m²当たりの株数を求める)

*普及に移す技術第88号より抜粋

■農作業安全確認について

農業機械作業による死亡事故が多発しています。シートベルトを着用することで死亡事故の発生を大幅に低減できるため、トラクター運転時は装着を徹底しましょう。また、安全フレーム等の装備を改めて確認し、公道を走行する際には灯火器類の設置や法令遵守を徹底しましょう。

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。